こんにちは! 事務局です

❖ 理事会報告

第1回 / 平成28年4月16日(土)

Ⅰ 報告事項

1. 平成27年度事業報告について
   - ①職能委員会報告
   - ②常任委員会報告
   - ③地区支部活動報告
   - ④主要事業報告(定款に基づく)差し替え
2. 平成28年度主要人事について
3. 平成28年度通常総会の招集および改正役員候補者(案)について

Ⅱ 決議事項

1. 看護協会長表彰について再審議
2. 職能委員会審議事項及び常任委員会諮問事項について
3. 常任委員会委員の選任について
4. (特)看護管理者委員会委員の選任について
5. 地区支部役員の選任について

Ⅲ その他

代議員・予備代議員研修会の開催について

第2回 / 平成28年5月21日(土)

Ⅰ 報告事項

日本看護協会理事会報告

Ⅱ 決議事項

平成28年度通常総会の運営について
- ①事業報告(案)
- ②決算報告(案)
- ③監査報告について

Ⅲ 協議事項

- ①総会運営(案)確認・役割について
- ②常任委員会・その他委員会委員長の選任について
- ③熊本地震の義援金について(熊本県看護協会)
- ④新理事オリエンテーション・合同委員会の開催について(6月23日)
- ⑤職能委員長及び常任委員会委員長会議の開催について(合同委員会後)

Ⅳ その他

会議等参加出席報告

第3回 / 平成28年6月11日(土)

Ⅰ 決議事項

- ①役員の選定について
- ②業務執行理事の業務分担について
- ③委員会、地区支部役員について
- ④平成29年度滋賀県看護協会通常総会の日程について

Ⅱ その他

平成28年度通常総会の反省等

(新会員情報管理体制)

ナースシップ もうすぐ はじまります! 利便性UP!

看護協会の入会・継続手続きが、新システムへ移行のため、9月頃より新会員証と平成29年度継続申請書兼口座振替依頼書をお送りいたします。施設代表者の皆さまには、申請書配布やとりまとめ提出をお願いします。

- ●平成30年度以降の継続手続きでは、毎年ご提出いただいていた継続申請書の提出が不要となります。
- ●個人口座から会費の自動引き落としが可能になります。
- ●もちろん、今まで通り施設ごとに現金でとりまとめていただくことも可能です。(振込手数料はご負担ください)

変更のお知らせ! ナースレーク130号でお知らせした「看護研究をやってみよう! 相談会」の開催日を右記のとおり変更します。なお、詳細は7月中旬にお知らせします。

「看護研究をやってみよう! 相談会」 8月19日(金) ➡【変更】8月18日(木)

会員の声

▶投稿した写真が表紙になってすごくうれしいです。大切に残しておきます。(K.J)

▶現場や各施設の取り組みの写真がたくさん添付されていて、自分自身のやる気向上につながりました。(N.M)

編集後記

うっとうしい梅雨が明ければ、いよいよ夏。今年は平年よりさらに暑い日が続くそうです。広報委員にも新メンバーが加わり、今年の暑さに負けないように頑張っていきたいと思います。皆様も体に気をつけて仕事に励んでください。(F.N)

あなたも投稿してみませんか

「一番星見つけた!(輝いている人)」「表紙の写真」「会員の声」に投稿していただいた方の中から、**羽毛クッション**をプレゼントします。ふるってご応募ください。詳しくは、ホームページ「委員会からのお知らせ」をクリック!(次回の発刊は平成28年10月上旬予定です。)

羽毛クッションプレゼント当選者発表! Vol.130

投稿していただいた方の中から、厳正なる抽選の上2名の方に決定しました。
長浜市 A.Aさん、東近江市 N.Mさんです。おめでとうございます。

TUK 東洋羽毛東海販売株式会社 三重営業所 フリーコール 0120-585104
〒514-0003 三重県津市桜橋 3-67-13 ～お気軽にお問い合わせください～

広報紙「ナースレーク」

Nurse Lake

Vol.131
2016年7月

公益社団法人 滋賀県看護協会

表紙風景写真:草津市水生植物公園にて(撮影:長浜市 A.Aさん)

CONTENTS

会長挨拶……2
平成28年度事業方針/看護協会の重点事業……3
看護サウルス賞表彰/看護の日エピソード受賞……3
役員名簿/地区支部名簿……4・5
事務局紹介……5
受賞おめでとうございます……6
平成28年日看協通常総会参加報告……7
熊本地震における災害支援ナースの活動報告…7～11
看護師職能委員Ⅰ、Ⅱ……12
医療安全通信/地区支部だより……11
ナースセンターだより……14
看護フェア2016/はたさぽ通信……15
こんにちは!事務局です/会員登録新システムについて…16
会員の声/編集後記/プレゼント……16

発行所●公益社団法人 滋賀県看護協会
発行責任者●会長 廣原惠子
〒525-0032 滋賀県草津市大路二丁目11番51号
TEL.077-564-6468 FAX.077-562-8998
http://shiga-kango.jp/
モバイルサイト
滋賀県看護協会 検索

滋賀県看護協会会員数(平成28年6月16日現在)

保健師/	309人	助産師/	245人	合計7,893人
看護師/	7,112人	准看護師/	227人	

就任のあいさつ

滋賀県看護協会 会長　廣原 惠子

この度　６月11日に行われました滋賀県看護協会総会において、皆さまの信任を受け会長に就任いたしました。その役割や責任の重大さに身の引き締まる思いです。

少子化と世界に例のない超高齢多死時代の保健医療福祉において、看護が担う役割は大きく積極的に参画することが求められています。日本看護協会は、2025年に向けた看護の挑戦として「看護の将来ビジョン～いのち・暮らし・尊厳をまもり支える看護」を表明しました。滋賀県看護協会として「母なる琵琶湖の慈しみを受け、人と自然が共生する美しい湖国滋賀」に住む141万5千人の方のいのち・暮らし・尊厳に常に目を向け、そのビジョンを具現化していきたいと思います。各地域の地域包括ケアシステムを推進し、県民の健康で幸せな生活の実現のためにも、多職種と関係機関との連携を強化して、滋賀県ならではの「三方よし」精神で、「ケアする者もケアの受け手も地域も良し」となるよう、皆様と共に滋賀県看護協会の事業を進めて参りたいと思います。

現在（28.3.31）、会員数は、職種別にみると、保健師323人（就業者数668人、入会率47%）、助産師257人（就業者数461人、入会率52%）看護師7,088人（就業者数12,735人、入会率54%）、准看護師247名（就業者数1,982人、入会率13%）合計7,915人（就業者数15,846人、入会率49%）で、県内就業者数の内会員率は半数を切り、全国都道府県別にみると、決して高い率ではありません。滋賀県看護協会の合言葉 “看護の力で滋賀を元気に” するためには、県内の看護職の多く方に会員になっていただき、看護専門職として、４職能（保健師・助産師・看護師・准看護師）の各人の看護実践力や連携を強化し、看護協会としての組織強化を図ることも重要です。

又、各々の会員の皆様の働く現状の課題と今後を見据え、看護職が誇りとやりがいを持ち、笑顔で働き続けられる環境整備の推進にも努力していきたいと思っています。

看護師、保健師、認定看護管理者としての資格と今までの様々な経験の学びを活かし、滋賀県看護協会の更なる発展に貢献していきたいと思います。私の大切にしているキーワードは、「笑顔・真摯・感謝・同じやるなら楽しく」です。

どうぞ、ご支援とご協力をよろしくお願いします。

平成28年度 重点方針

❶ 社会のニーズに対応した看護を提供できる体制づくり

❷ 労働環境の改善と充実

❸ 看護の専門性の強化と推進

平成28年度 重点事業

看護実践能力の強化	●教育体系再構築のための検討事業 ●統括保健師・看護管理者等指導力支援 ●自律を目指した中堅看護職の人材育成	●看護管理者のマネジメント能力開発事業 ●特定行為研修制度の普及（制度周知・啓発）
安心して働き続けられる職場環境づくりの推進	●ワーク・ライフ・バランス推進事業（ワークショップの開催） ●勤務環境改善支援センターとの連携強化	●ナースセンターの機能強化 ●届け出制度の普及と活用促進
地域包括ケアを支える看護の機能強化	●地域包括ケアを目指した看・看連携 ●在宅ケアセンター「みのり」運営	●訪問看護支援センター運営 ●地域包括に従事する人材の育成と活動支援

カンゴサウルス賞をいただきました。

日本看護協会のワーク・ライフ・バランス推進ワークショップに参加して３年を終えた2施設に「カンゴサウルス賞」をいただきました。

日本看護協会に代わり、通常総会の場において伝達式が行われました。

友仁山崎病院

大変な賞をありがとうございました。３年間終わってみればあっという間でしたが、モチベーションを維持するのが大変でした。取り組んできた姿勢をスタッフがみてくれていて、今後も一丸になっていけるかなと思っています。

（橋本逸子 看護部長）

ヴォーリズ記念病院

本日は素敵な賞をありがとうございました。当初どういう風にしていこうか考えていましたが、400名弱の病床数でしたので、病院全体で取り組んでいきました。今年度は事務方が中心になってしてくれています。チームで地域住民を支えていく時代、看護師だけでなくいろんなスタッフと協力していきたいと思います。

（岡田幸子 看護部長）

第6回「忘れられない看護エピソード」受賞作発表!!

～ 滋賀県 髙野さんが一般部門の最優秀賞受賞されました ～

日本看護協会主催 第６回「忘れられない看護エピソード」受賞作が発表され、一般部門最優秀賞に滋賀県在住の髙野裕子さんの作品「静かな勇気」が選ばれました。作品には夫の闘病を支える妻と看護師との交流が綴られています。表彰式では受賞者の髙野さんと作品に描かれた看護師が12年ぶりに涙の再会をはたされました。また、この度、日本看護協会が初めて作品を映像化しましたので、ぜひご覧ください。

「静かな勇気」のショートムービーはこちら

平成28年度 役員・委員・地区支部役員

一年間 よろしくお願いします

※敬称略

滋賀県看護協会 役員

会長	看	廣原　惠子	滋賀県看護協会
副会長	保	今堀　初美	野洲市役所
副会長	助	梅本　範子	市立長浜病院
副会長	看	西村　路子	滋賀医科大学医学部附属病院
常務理事	看	伊藤美千代	滋賀県看護協会
常務理事	保	草野とし子	滋賀県看護協会
専務理事	保	三上　房枝	滋賀県看護協会
職能理事	保	黒橋真奈美	東近江保健所
職能理事	助	吉岡　千晴	高島市民病院
職能理事	看Ⅰ	奥野佐千子	長浜赤十字病院
職能理事	看Ⅱ	日置千津子	高島市役所
第一地区理事	看	小寺　利美	滋賀医科大学医学部附属病院
第二地区理事	看	河野奈美子	済生会滋賀県病院
第三地区理事	看	井原　憲子	公立甲賀病院
第四地区理事	看	中嶋登美子	日野記念病院
第五地区理事	看	橋本　逸子	友仁山崎病院
第六地区理事	看	烏脇　富子	市立長浜病院
第七地区理事	看	武内美英子	高島市訪問看護ステーション
准看護師理事	准	柴田美恵子	豊郷病院
監事	看	藤井　淑子	個人
監事	保	堀井とよみ	個人
監事	(保・助・看・准看以外)	田中登美子	個人

職能委員会

保健師職能委員	委員長	黒橋真奈美	東近江保健所
	保	永田　景子	大津市役所
	保	大木あかね	守山市役所
	保	若林　友美	湖南市役所
	保	茶谷　貴子	竜王町役場
	保	竹内　翔子	彦根保健所
	保	前田　洋美	長浜市役所
	保	青谷　光恵	高島市役所
助産師職能委員	委員長	吉岡　千晴	高島市民病院
	助	川島もと子	大津市民病院
	助	塩　成子	大津赤十字病院
	助	香川　留美	済生会滋賀県病院
	助	角山　尚美	近江八幡市立総合医療センター
	助	出石万希子	聖泉大学
	助	前川　孝枝	長浜赤十字病院
看護師職能Ⅰ委員	委員長	奥野佐千子	長浜赤十字病院
	准	澤井　文美	琵琶湖大橋病院
	看	石王由美子	草津総合病院
	看	堀　緑	公立甲賀病院
	看	名畑富美江	近江温泉病院
	看	橋本　宏美	彦根市立病院
	看	宮部　照美	市立長浜病院
	看	角田　智也	今津病院
看護師職能Ⅱ委員	委員長	日置千津子	高島市役所
	看	和田　幸子	大津市訪問看護ステーション
	看	川嶋　和江	特別養護老人ホーム 淡海荘
	看	木林　智子	ケアセンターこうせい
	看	村田　尚子	NPO結の家
	看	大矢みち子	介護老人保健施設 アロフェンテ彦根
	看	上松　智秋	介護老人保健施設 湖北やすらぎの里
	看	畑　郁子	琵琶湖大橋病院 訪問看護ステーション

常任委員会

教育委員会	委員長	看	石井　淳子	守山市民病院
		看	髙田　恵	滋賀医科大学医学部附属病院
		看	福井もも子	野洲病院
		看	亀澤　映美	大津赤十字病院
		看	東　美香	県立小児保健医療センター
		助	宇野三奈子	甲賀看護専門学校
		看	岡田　久美	近江八幡市立総合医療センター
		看	川口　恵子	豊郷病院
		保	原田　小夜	聖泉大学
		助	立岡　弓子	滋賀医科大学
		助	寺本美智代	県立看護専門学校
		看	岸　清美	高島市民病院
認定看護管理者教育運営委員会	委員長	看	今村香代子	大津赤十字志賀病院
		看	村上　厚子	個人
		看	呉竹　礼子	長浜赤十字病院
		看	窪田　好恵	滋賀県立大学
		看	小森久美子	野洲病院
看護学会委員会	委員長	看	伊富貴初美	大津赤十字病院
		助	岩島あけみ	滋賀医科大学医学部附属病院
		看	赤尾　順子	地域医療機構 滋賀病院
		看	寺澤　律子	県立成人病センター
		保	宮本　幸恵	湖南市保健センター
		看	間　文彦	聖泉大学
		看	立本　文子	近江八幡市立総合医療センター
看護活動推進委員会	委員長	看	松並　睦美	済生会滋賀県病院
		看	上路　由美	大津市民病院
		看	比嘉絵里香	琵琶湖中央病院
		看	山中　稔子	公立甲賀病院
		看	地濱　舞	神崎中央病院
		看	草野　美樹	市立長浜病院
		看	荒川　貴一	高島市民病院
労働環境改善委員会	委員長	看	岡田　幸子	ヴォーリズ記念病院
		看	前田　晴美	琵琶湖養育院病院
		看	林　真由美	県立精神医療センター
		看	中島　智子	甲西リハビリ病院
		看	西河美智子	彦根中央病院
		看	脇坂　直隆	セフィロト病院
		看	吉川　敬子	市立長浜病院
広報委員会	委員長	看	坂本江利香	野洲病院
		看	永田みどり	大津赤十字病院
		看	吉田すみ子	大津市民病院
		保	大井　恭子	甲賀保健所
		看	坂口　里香	県立成人病センター
		看	古川　尚子	友仁山崎病院
		看	土井恵津子	今津病院
災害看護推進委員会	委員長	看	津田　雪代	県立小児保健医療センター
		看	小越　優子	滋賀医科大学医学部附属病院
		看	平井　公栄	公立甲賀病院
		看	藤田　道子	東近江市市役所
		看	林　薫	彦根市立病院
		看	川森百合子	長浜赤十字病院
		看	大塚希巳江	高島市民病院
医療安全推進委員会	委員長	看	藤本とき江	市立長浜病院
		看	日向美和子	大津市民病院
		看	瀬村　直美	済生会滋賀県病院
		看	中井喜代美	県立小児保健医療センター
		看	酒井　和美	公立甲賀病院
		看	森　啓一	ヴォーリズ記念病院
		看	上村千馨子	彦根市立病院

その他委員会

選挙管理委員会	看	加藤　佐織	琵琶湖中央病院
	看	西村寿加代	草津総合病院
	看	木村　佳喜	水口病院
	看	伴　承子	滋賀八幡病院
	保	小林　千春	甲良町役場
	看	中嶌　和美	市立長浜病院
	保	古谷　靖子	高島市地域包括支援センター
推薦委員	看	塩川早千代	ひかり病院
	助	溝口　浩子	済生会滋賀県病院
	看	松浦ゆきみ	紫香楽病院
	看	増田友佳子	東近江敬愛病院
	看	武内加代子	彦根中央病院
	保	澤村みな子	米原市役所
	看	田邊　妙子	今津病院

平成29年度 日本看護協会通常総会 代議員

浜田　恵子	保	大津市役所
岩橋賀与子	看	公立甲賀病院
岡田　幸栄	助	近江八幡市立総合医療センター
柴田美恵子	准	豊郷病院
徳田　敏子	看	市立長浜病院
西村　路子	看	滋賀医科大学医学部附属病院
草野とし子	保	滋賀県看護協会
吉岡　千晴	助	高島市民病院

平成29年度 日本看護協会通常総会 予備代議員

野浪　裕子	助	大津赤十字病院
森山寿美子	看	滋賀里病院
青木　直美	保	栗東市役所
植松あさ子	看	公立甲賀病院
冨江　淳子	准	湖東記念病院
橋本　宏美	看	彦根市立病院
髙野　洋子	看	長浜赤十字病院
福田　直美	看	高島市民病院

地区支部役員

第1支部	支部長	小寺　利美	滋賀医科大学医学部附属病院
	副支部長	今村香代子	大津赤十字志賀病院
	書記	将木　伸子	JCHO滋賀病院
	広報	岸本貴志子	琵琶湖中央病院
	会計	原田　真弓	大津市保健所
第2支部	支部長	河野奈美子	済生会滋賀県病院
	副支部長	西村　一恵	近江草津徳洲会病院
	書記	井上　由美	守山市民病院
	広報	清水　数司	びわこ学園医療福祉センター野洲
	会計	寺田　千秋	滋賀県立小児保健医療センター
第3支部	支部長	井原　憲子	公立甲賀病院
	副支部長	尾村　友子	生田病院
	書記	加藤亜希子	湖南市役所
	広報	中島　智子	甲西リハビリ病院
	会計	福井　伸彦	水口病院
第4支部	支部長	中嶋登美子	日野記念病院
	副支部長	曽我　幸子	神崎中央病院
	書記	中野さつき	ヴォーリズ記念病院
	広報	小島　一浩	東近江総合医療センター
	会計	竹丘　奈美	近江温泉病院
第5支部	支部長	橋本　逸子	友仁山崎病院
	副支部長	猪田　縁	豊郷病院
	書記	前川　真紀	彦根市立病院
	広報	藤森　暢彦	彦根中央病院
	会計	浦田　民恵	甲良町役場
第6支部	支部長	烏脇　富子	市立長浜病院
	副支部長	小川　幸子	長浜赤十字病院
	書記	大塚　宏未	長浜市役所
	広報	才田　健樹	セフィロト病院
	会計	中嶌　和美	市立長浜病院
第7支部	支部長	武内美英子	高島市訪問看護ステーション
	副支部長	澤井奈奈江	高島市民病院
	広報	石塚　エミ	マキノ病院
	会計	齋藤　祥子	高島市役所

受賞おめでとうございます

永年のご活躍に敬意を表し、心よりお祝い申し上げます。

※敬称略、所属は推薦当時

平成28年 春の叙勲

瑞宝双光章

青山　和代 さん

元 地域医療機構滋賀病院看護部長

日本看護協会長表彰

松田 和子 さん　市立長浜病院

小川 薫子 さん　草津市役所

看護功績章

家城美千代 ｜ 滋賀県堅田看護専門学校
藤野みつ子 ｜ 滋賀医科大学医学部附属病院

看護功労者知事表彰

梅本　範子 ｜ 市立長浜病院
宮本美佐江 ｜ 公益社団法人滋賀県看護協会
上久保富子 ｜ 特別養護老人ホーム美松苑
嶋　みよ子 ｜ 琵琶湖病院
沢尾ひとみ ｜ 草津総合病院
芳沢　艶子 ｜ 市立長浜病院
芳尾　邦子 ｜ 公立甲賀病院
細川　數子 ｜ 滋賀医科大学医学部附属病院
武政　章子 ｜ 高島市民病院

滋賀県看護協会長表彰

赤井　福美 ｜ 長浜市立湖北病院
杉本喜代美 ｜ 長浜市立湖北病院
外川　栄子 ｜ 豊郷病院
長谷川友江 ｜ 滋賀県立成人病センター
渡辺　良子 ｜ 大津市民病院
吉田　律美 ｜ 大津市民病院
北林　　栄 ｜ 公立甲賀病院
井手多希子 ｜ 東近江市立能登川病院
小川　幸子 ｜ 長浜赤十字病院
奥野佐千子 ｜ 長浜赤十字病院
東　　美香 ｜ 滋賀県立小児保健医療センター
清水　輝美 ｜ 高島市民病院
田堂　純江 ｜ 大津市民病院付属看護専門学校
今井　尚子 ｜ 滋賀県立総合保健専門学校
内田　善子 ｜ 滋賀県立総合保健専門学校
名畑富美江 ｜ 近江温泉病院
飯間喜美幸 ｜ 草津看護専門学校
烏脇　富子 ｜ 市立長浜病院
土川　陽子 ｜ 市立長浜病院
山口ひろ子 ｜ 滋賀里病院
佐藤美由紀 ｜ 草津保健所
山﨑富美子 ｜ 大津市民病院
間　　文彦 ｜ 聖泉大学
冨田久美子 ｜ 彦根市立病院
古川三千代 ｜ 彦根市立病院
大脇　和子 ｜ アンタレス訪問看護ステーション
塚越美智子 ｜ 介護老人保健施設坂田メディケアセンター
北野富美代 ｜ 特別養護老人ホーム坂田青成苑
松江　克美 ｜ 大津赤十字病院
久田　郁子 ｜ 大津赤十字病院
藤井　優子 ｜ 社会福祉法人青祥会法人本部
安井　明子 ｜ 済生会滋賀県病院
高居　和美 ｜ 社会福祉法人 湖北会
古株ひろみ ｜ 滋賀県立大学人間看護学部

看護功績章＆看護功労者知事表彰

協会長表彰

平成28年度日本看護協会通常総会 参加報告

《1日目》

代議員　尾方 恵（マキノ病院）

平成28年度日本看護協会通常総会が、６月７日・８日千葉県の幕張メッセで開催されました。両日で代議員750人を含む延べ5.594人の参加がありました。

坂本会長の開会の挨拶は、４月に起きた熊本地震の被災者へのお見舞いと復興への願いを述べられ、災害支援ナースとして現地で活躍されたナースを労われました。会長にとって任期最後のこの一年について「私は何者か、何をすべきか、何を支えるのか、政策を絶えず考えている。」「日本のいたるところで看護の手を必要としている。そのために、着実に大胆に政策を推進してゆく。」「地域包括システム推進の中、求められる看護師として力をつけなければならない。」とし、まず、看護師基礎教育4年制とする抜本的改革の提言。次に、「特定行為に係る看護師の研修制度」が昨年10月より施行されたことにあたり、本年度から31年度まで全21分野の認定看護師を対象とした特定行為研修を開催し、領域ごとの更なる活躍のための施策。また、看護師が働き続けられる環境づくり、70万人の看護協会員の効率的な事務処理の実現のために新会員情報管理体制「ナースシップ」を10月より開始させる取り組みについて述べられました。最後に、「生きる力を引き出す、心身ともに活躍する看護職のために力を尽くす。」と、力強い言葉で締めくくられました。

議決事項は、第一号議案の名誉会員の推薦、二号議案の新会員情報管理体制の開始に係る定款及び定款細則の改正はいずれも承認されました。平成28年度改選役員及び推薦委員の選出について選挙があり、翌日開票の結果37名の候補者全員が選出され、滋賀県からは地区理事として廣原惠子氏が選ばれました。

《2日目》

代議員　臼井 康惠（滋賀医科大学医学部附属病院）

通常総会２日目は、「平成27年度事業・決算および監査」「平成28年度重点政策・重点事業並びに計画、資金収支予算及び収支予算」の報告が主でした。

現在、2025年を見据えた社会保障制度改革の動きが進んでおり、病床の機能分化・連携、在宅医療・介護の推進、医師・看護師等の医療従事者の確保・勤務環境の改善、地域包括ケアシステムの構築等が推進されています。

このような時代背景から、平成28年度の公益社団法人日本看護協会の事業計画として、日本看護協会の使命である「看護の質向上」「働き続けられる環境づくり」「看護領域の開発・展開」を前提とし、変革に対し新たに必要な対策を講じるとともに、これまで取り組み、引き続き充実すべき事項を勘案し、平成28年度重点政策・重点事業として取り組むことが話されました。

重点政策は、「看護の将来ビジョン」を実現するための政策として、平成27年度策定の重点政策「地域包括ケアシステムの構築と推進」「看護職の労働環境の整備と推進」「看護職の役割拡大の推進」「少子超高齢化社会に対応する人材育成」の４項目を継続することの報告がありました。また、重点政策の推進に直接的な重点事業については、「看護がつなぐ地域包括ケアの推進」「在宅・施設等の長期療養者を支える看護の機能強化」「勤務環境改善（夜勤交代制勤務・賃金）」「就業と定着の推進（NCCS、届け出制度）」「特定行為研修制度の普及と諸課題対策」「看護職の裁量拡大を促進するための新たな仕組みの検討」「看護基礎教育制度の改革（准看護師教育制度を含む）」「保健師のキャリア形成促進」「助産実践能力習熟段階（クリニカルラダー）の活用推進による助産実践能力強化支援」「看護師のクリニカルラダーの開発」の10事業を展開すると報告されました。

私は、通常総会に滋賀県看護協会の代議員として初めて参加する機会を得ました。通常総会では、日本看護協会執行部の事業に対し、各都道府県の代議員や会員からの活発な意見交換がとても印象的でした。今回の通常総会を終え、日本看護協会の組織の一員として、今年度の事業計画に真摯に取り組んでいきたいと思いました。

平成28年 熊本地震 災害支援ナースの活動

「平成28年熊本地震」は、平成28年４月14日以来、熊本大分地方に甚大な被害を及ぼしました。避難生活を余儀なくされた方々の心身のケアのために、日本看護協会の要請を受けて、滋賀県看護協会からも４月29日から５月29日までの１ヶ月間に、22名の災害支援ナースが派遣されました。

余震が続く中、充分な救援物資等も届かない不自由な環境の中で、誠心誠意、避難者のために活動していただいた災害支援ナースの実際を紹介します。なお、災害支援ナース派遣に際しご協力いただきました看護管理者様をはじめ、スタッフの方々に感謝申し上げます。

また、被災地の一日も早い復旧復興を心よりお祈りいたします。

日　時	概　　要
4/15（金）～	日本看護協会と連携し情報収集を行う
4/18（月）	支援レベルの引き上げ（1→2へ） 近隣県看護協会（福岡県・鹿児島県・宮崎県）より災害支援ナースの派遣開始
4/19（火）	長崎県・佐賀県看護協会　派遣開始
4/20（水）	大分県看護協会　派遣開始
4/22（金）	支援レベルの引き上げ（2→3へ） 日本看護協会より滋賀県を含む近畿・関東の看護協会へ派遣要請。 以後、派遣要請に応じて災害支援ナース所属施設へ派遣要請及び派遣調整を行う

派　遣　期　間	概　　要	活　動　場　所
4/29（金）～5/2（月）	第１班　２名を派遣	熊本県阿蘇郡西原村
5/2（月）～5/5（木）	第２班・３班　４名を派遣	熊本県阿蘇郡西原村・上益城郡御船町
5/5（木）～5/8（日）	第４班　２名を派遣	熊本県阿蘇郡西原村
5/8（日）～5/11（水）	第５班　２名を派遣	〃
5/11（水）～5/14（土）	第６班　２名を派遣	〃
5/17（火）～5/20（金）	第７班　２名を派遣	〃
5/20（金）～5/23（月）	第８班　２名を派遣	〃
5/23（月）～5/26（木）	第９班　２名を派遣	〃
5/25（水）	日本看護協会より５月末で終了見込との通知	
5/26（木）～5/29（日）	第10班　２名を派遣	熊本県菊池郡大津町
5/27（金）	滋賀県看護協会より県内災害支援ナース所属施設への派遣要請終了を通知	
5/29（日）	最終班帰還	
5/30（月）	日本看護協会へ帰還報告	

災害支援ナースの活動報告

中川 征子 さん｜滋賀医科大学医学部附属病院【4/29～5/2・西原中学校】

滋賀県看護協会からの災害支援ナース派遣第１班として、西原中学校で活動しました。この避難所の体育館には約470人避難され、車中やテントでの避難者も数名おられました。自衛隊や医療スタッフ・ボランティアの支援があり、仮設の水道・電気も整っており、落ち着いた印象の避難所でした。

体育館内の救護所では医師の創傷処置やDVTスクリーニングのエコー介助等を行い、大阪市から派遣の保健師と協力して避難者の情報共有やケアを実施しました。避難所内をラウンドすると、降圧剤等の常備薬を持っていない方やストレスから下痢等の症状が出ている方などがおられました。自ら救護所に来られない避難者も多く、看護師からの声かけが大切だと感じました。また、避難者の多くは昼間に家屋の片付けや仕事に行かれており、夕方以降に避難者からのニーズが増えるため、24時間常駐する災害支援ナースの他にもボランティア等の夜間対応ができれば良いのではないかと思いました。

派遣の支援者は数日交代のため、多くの避難者情報を継続して共有するツールが必要であったため今回、ノートを作成し、引き継ぎましたが、内容については今後検討が必要であると考えます。
今回、看護協会の災害支援ナースとして貴重な体験をさせていただいたことに感謝申し上げます。

地震の影響で道路が波打ち、
段差ができています

避難所内の救護所

髙田 久美子 さん｜滋賀医科大学医学部附属病院【4/29～5/2・西原中学校】

震災から約２週間後、熊本県阿蘇郡西原村中学校体育館に災害支援ナース第１班として派遣となり、約475人の避難者と共に４日間過ごしました。医師・薬剤師が待機していない夜間の救護所では、看護師を頼りに体調不良などを訴える避難者が多く見られました。看護師が支援物資の市販薬で対応できると判断した避難者は、経過観察をする事にしました。そして、発熱者に対しては、二次感染防止のための隔離を行いました。支援する中で、避難者の継続看護を行うために紙カルテ、経過表を作成し次の支援者や医師、薬剤師、保健師に申し送りがスムーズに行えるような体制を整え申し送りに活用しました。また、症状もなく特に訴えのない避難者に対しても可能な限り声をかけコミュニケーションをとるようにしました。身体に何かの不自由さや不安を持っていると考えてこちらから訴えを引き出す対応をする事で心を開いてもらえる気がしました。避難者の思いに近づき、心のケアを行うことの大切さも今回の支援を通して感じました。今回このような機会をあたえて下さった皆様に深く感謝をいたします。

早川 初美 さん｜友仁山崎病院【5/2～5/5・西原中学校】

周辺にある集落は震源地である布田川断層の真上にあり、瓦やブロック塀が崩れ、窓ガラスが割れ落ち、ほとんどの家には「危険」の赤い紙が貼られていました。

避難所のリーダーである行政職員は、発災後、１度も自宅には戻っておらず、家族を実家に退避させ、自身は避難所を守るために常駐していました。「人から聞いた話では、自分とこの家はもうダメだけん、戻っても一緒たい。見たら心がおれてしまいそうばい。」そう言って、気丈に振る舞うリーダーに、私は話を聞きねぎらうことしかできませんでした。

避難所では、片麻痺の人、シルバーカーを押す人、目の不自由な人、杖歩行の人が混在していたため、安全に生活が送れるよう、段ボールベッドの設置や歩行ルートの確保など環境整備を行いました。しかし、「居心地のよか避難所を作ってだめ。自立をしていかなんから少し不自由くらいが丁度よか。」と言ったリーダーの言葉に改めて「被災者の自立支援」の大切さに気付かされ、深く印象に残りました。看護師として、地域に戻していくためのサポート役に徹することの大切さと難しさを学んだ活動になりました。

危険 を表す「赤紙」がほとんどの家に
貼られていました。

傾いた家の中で作業する人に
支援ナースが声をかけています。

加藤 守 さん｜近江八幡市立総合医療センター【5/2～5/5・御船中学校】

避難者229名の御船中学校に常駐し、隣接する御船小学校146名とカルチャーセンター 142名、スポーツセンター 178名の４施設の合計685名の方へ24時間支援させて頂く体制でした。主な看護活動として、トイレ清掃を含む避難所内施設の環境整備、バイタル測定や要介護者へのトイレ介助などを行いました。また、支援が必要な方が居ないか巡回しました。

介入した１例として、夜間に呼吸苦の訴えがある避難者の方がおられました。受診頂くと深部静脈血栓症と心不全が発見されすぐに総合病院へ救急搬送される事例がありました。近医を受診頂く際も高齢で独居の方であり、移動手段を保健センターと協議し、最終的にはタクシーを手配し受診して頂きました。病院受診を勧めた際にはお金がないと言われ、私達だけでは解決できないこともありました。

今回の活動を通し災害支援として避難所での看護師や医療従事者の役割は非常に大きいと感じました。避難者や役場の職員からは「24時間避難所に看護師が常駐していることで何か健康問題等があればすぐに相談できるので有難い」という言葉を頂きました。被災者の方々が１日も早く日常生活を取り戻される事をお祈り致します。

末武 美里 さん｜高島市民病院【5/2～5/5・西原中学校】

ライフラインの状況が分からない中、あらゆることを想定して活動に必要なものを準備しました。ここでは、約250人が避難されていました。運動場での車中泊はありましたが、早朝には車はなく正確な人数は把握できませんでした。エコノミークラス症候群が問題視される中、足のむくみやだるさを訴えて来られる方に避難所での生活を勧め、運動や弾性ストッキングの指導を行いました。その中に右手が義手の方がおられました。着脱の介助はせずに、一人で出来るコツを指導しました。翌日も救護所に来てくださり、一人で出来るようになり喜んでいただけました。がれきの撤去で一時帰宅される被災者宅を訪問した時には、避難所では笑顔で過ごされている方が、被災した家の前で呆然と佇む姿に胸が痛みました。「被災地という環境に被災者とともに存在し、できるだけ多くの被災者に関心と気遣いを示し、手を差し伸べること」という災害看護で学んだことを思い返し、震災の悲惨さを想像できていなかったと反省しました。活動を通して、被災者自らが行動できるように援助する、心に寄り添い援助する大切さを学びました。

河野 ひとみ さん｜公立甲賀病院【5/5～5/8・御船中学校】

今回初めて災害支援ナースとして派遣され、情報もほとんどないまま現地に到着しました。派遣場所までの道中、見える景色は道路にひび割れや段差が数多くあり、震災のひどかった地域は家屋が傾き元の姿が想像も出来ない程全壊していました。言葉にならなかった。恐いと言うよりどうしよう、私に何か出来る事はあるのだろうかと不安がよぎりました。被災されて３週間がたち避難所生活も長期化してきた頃、私は中学校の体育館での活動となりました。周囲には３つの避難所があり被災者は200名を優に超えます。実際、被災者の中には、風邪や発熱などの症状出現や、ストレスによって家族に怒りをぶつける人、余震が怖く室内で寝れず車中泊をする子どももいました。その中で、看護師として現在の状況を把握し、声かけをし、見守り24時間体制で関わりました。何かあればすぐ知らせてもらえるように伝えました。その関わりの中で、声かけだけでなく話に耳を傾け、うなずき思いを共有し、触れて感じながら寄り添っていくことが大事であると感じた。今回、このような貴重な体験をすることで私自身、看護を見つめ直す良い機会になりました。この機会を与えて下さった看護協会をはじめ所属病院や両親、家族に感謝したいと思います。

嶋村 美知代 さん｜公立甲賀病院【5/5～5/8・御船中学校】

今回、私は災害支援ナースとして災害地の熊本県御船町の中学校に行かせて頂きました。約200人あまりの方が体育館で生活をされていました。私が現地に入った時はライフラインも復旧しており、電気や水道なども使える状態だったので不自由することは少なかったです。

支援ナースの活動としては処置や援助の必要な方、症状の訴えのある方を訪問しバイタルサインや状態の観察、情報収集を行いました。必要に応じて病院への受信を勧めるなどの対処を行なっていきました。私が行った時は震災から日にちが経っていたので、身体面よりも精神的なフォローが重要な時期でした。看護ケアを行いながら皆さんから今の状況に対する思いや今後の不安などを長い時間をかけて聞くことが出来ました。私は話を聞くことしか出来ませんでしたが、その事がストレスの発散に少しでもなったのではないかと考えます。被災地に行く場合はその状況に応じた支援が必要だと感じました。また、さまざまな職種がチームを作り支援をしていたことは大きな力であり、今後も継続して行なっていく必要があると思います。被災地の復興をお祈りします。

堂野 いずみ さん｜友仁山崎病院【5/5～5/8・西原中学校】

避難者は約250名昼夜避難者の出入りがある為、数の把握ができない状況であり、活動内容としては保健師と協力し健康管理や必要者への血圧測定・相談、巡回医師への報告診察依頼や相談、他職種支援チームとの連携、受診の付き添い、毎日のラジオ体操、全員で体育館内の清掃、入浴のお手伝いなど、時には世間話に花が咲きました。そして、散歩をして久しぶりに見た花に喜ぶ方もいらっしゃいました。夜帰ってきた方は今日の出来事を話して自分の場所に戻っていく。「東北の方はもっと大変だった」と言われる方「忘れないように伝えていきたい」と言われる方　そして、避難者のリーダーはこの土地をよく知り、この方々をよく知っている。常に避難者に寄り添い、それぞれの自立のために常に考えていることがよくわかりました。「寄り添う」大きな意味のある言葉だとあらためて感じました。これからも、たくさんの方たちを忘れず、常に関心を持ち、大切にする気持ちはどこででも忘れないようにしたいと思います。安心して活動できたこと、十分な休養が出来たことは職場の皆様へ心からしたいと思っています。

高井 都美子 さん｜滋賀医科大学医学部附属病院【5/5～5/8・西原中学校】

私は、災害支援ナース派遣要員の第３班として西原中学校体育館の避難所で活動しました。避難者数は、日中約50名、夜間 約250名でした。ライフラインは、復旧していました。活動は、２人で24時間体制をとり、３泊４日寝袋で過ごし、救護対応をしました。避難者皆に可能な限り声を掛け血圧測定、健康手帳記入、支援の予定を説明し、災害支援スタッフに相談するよう促しました。はじめは、こわばった表情で「大丈夫」と返答されていた方々も徐々に笑顔がみられ、救護所に来て、逆に私達を気遣ってくださいました。この経験から学び感じたことは、人と人との絆を大切にし、全国から派遣された方への的確な情報提供、活動協力、不審者の確認等も災害支援ナースの重要な役割であるということでした。この機会をいただいたことと、派遣にあたりご準備いただいた看護協会の皆様に感謝申し上げます。

自衛隊設営風呂

津田 雪代 さん｜滋賀県立小児保健医療センター【5/8～5/11・西原中学校】

５月８日、私は学生時代に何度も訪れた熊本の地へ降り立ちました。シートで覆われた屋根、傾き崩れ落ちた納屋や古民家、空き地には無数のテント。東日本の震災の様に全てが流された光景とは違う何とも言えない重い空気を感じながら活動が開始となりました。続く余震の中、避難者245人。体育館内は、わずかな通路と隙間なく家族毎の布団やシートが敷き詰められ、高齢者や障害者の方全てが堅い床に横たわり生活をされていました。医療的な対応はほぼ改善されてきた時期にあり、「支援ナースとして何ができるか」とメンバーで考え、健康管理、高齢者の生活環境の改善、避難所運用を行う職員の負担改善など主に行ってきました。また何より時間があれば、少しでも多くの方と話す機会を持ち、被災した時の恐怖や家族を失った悲しさ、これからの生活への不安など傾聴する事に努めました。施設で日々患者様の話しを聞き対応してきたものの、被災された方に何か「励み」となる物を提示できないもどかしさがありました。しかし活動終了日の朝、毎日血圧を測り痛めた膝のシップやテーピングの交換をしていた方が、遠くから手招きをされ飛んでいくと、そっと小さなザルにイチゴが数個「食べんね。今日帰るっちゃろ。じゃけん今朝取ってきたばい。ありがとな・・いてくれるだけで安心した」この言葉に、自分が来た意味を実感できた支援活動でした。

澤井 奈奈江 さん｜高島市民病院【5/8〜5/11・西原中学校】

この時期は学校が再開される前で、体育館のみが避難所として使用され、避難者の方々と生活を共にする貴重な体験をしました。11日から学校も再開され徐々に生活リズムが取り戻されていましたが、避難所を運営することの苦労や心労をリーダーの言動や行動から見て取れました。少しでも負担の軽減になればと、中学校に集まった支援者、大阪市保健師、宮城県の保健師、佐賀県の行政の方、支援センターから派遣されたボランティア、そして私たち支援ナースで短時間ミーティングを行い、一日の動きや、気になること、困りごとなどを出し合い対策を練ってできることから始めていきました。また、段ボールベッドや褥瘡予防のマットを入れる際には保健師とカンファレンスを実施し、必要な方に適切に使用できるようにし、身体症状や精神症状に気になる避難者の方には共に訪問し、医療班やDPATにつなげ適切な処置をしていただくことができました。

段ボールベッド作成中

多職種で連携し意見交換や情報を共有することは、いろんな知恵が集まり避難所での医療活動にとても重要なことだと感じました。

石津 大介 さん｜高島市民病院【5/11〜5/14・西原中学校】

今回、初めて災害支援ナースとしての活動を経験させていただきました。活動内容は、西原中学校避難所での血圧測定や健康相談、湿布交換や消毒などの処置、入浴時の介助や見守りなどを行いました。医療ニーズはそれほど高くありませんでしたが、慣れない環境での生活や片付けなどの作業で疲れを感じている方もあり、日中は作業に出られて不在のことが多いため、そういった方々の把握が重要だと感じました。また、大阪市と宮城県涌谷町の保健師さんと共同で、日中不在の方にもわかるようにマッサージなどのボランティアや日赤の巡回診療などがいつ来られるかの掲示を開始しました。

西原中学校避難所の特徴として、コミュニティーとしてのつながりが強く、避難者、本部で相談しパーテイションは現時点ではあえて設置しないという方針で運営されていました。災害研修ではパーテイションを設置した避難所運営の話が多いですが、地域性など、場合によりパーテイションを設置しない方が、避難者と本部運営双方に良い方向にはたらいていたことが印象的でした。

岡田 裕子 さん｜高島市民病院【5/11〜5/14・西原中学校】

避難者総数は200名と聞いていましたが、実際には体育館以外に運動場や学校近辺にも避難者がおられ200名前後としか把握できない状態でした。日中は学校の再開もあり、自宅の片づけや畑の手入れに出られる方がほとんどで、体育館内に残っておられるのは20名前後でした。よって医療ニーズは高くなく、健康状態の把握と病気の初期症状に対する対応、入浴介助などを行っておりました。支援２日目にボランティア情報・医療情報ボードや避難者マップを作成して支援者内で共有できるようにしまさいた。支援３日目に近隣のセンターに福祉避難所的な役割ができましたが、常駐する看護師がいないことに対する不安の声があり、巡回することにしました。その後西原村にその旨を伝え看護師の支援が入るようになりました。

宮城県に続き２回目の災害支援でしたが被災状況や時期、ライフラインや物資の状況などによって、求められる支援は全く変わることを実感してきました。

小西 綾子 さん｜ヴォーリズ老健センター【5/17〜5/20・西原中学校】

西原村はあまり報道されず被害が少なかったのかなと思っていましたが、地震から１ヶ月以上も経過していたのに中学校の体育館には250名ほどの方が避難生活を送っておられました。

そのような状況で前任者から引継ぎを受け活動を開始したのですが、まず、要注意者の名前と顔が一致せず誰に何をしなければならないのか分からない状態でした。避難者と接しコミュニケーションをとるうちに徐々に私たちを受け入れてくださり、それと同時に何が必要なのか見えてきたように思いました。

避難所には現疾患を持った方も多く、しかしその疾患を表に出しているわけもなく、どのように向き合えば良いのか難しさを感じました。「何かの癌で化学療法中で髪が抜けて恥ずかしいので、入浴は１人でしたいそうです。」と引継ぎを受けていた方が発熱し腹痛を訴えてきました。緊急性があるのか判断する材料が足りない!結局、自分の疾患について良く理解している方だったので、緊急に医療機関を受診していただき入院となりました。色々な可能性を考えなければならないし、又その知識の必要性も感じました。他にも避難所ではいろんな経験をさせていただいて、たいして何もできない自分の未熟さを思い知らされたが、それ以上に今回貴重な経験をさせていただき、災害支援ナースとして活動できたことに感謝する。

大塚 希巳江 さん｜高島市民病院【5/17〜5/20・西原中学校】

避難所に到着し神奈川県の支援ナースから避難所の生活や被災者の方々の申し送りを受けました。ストレスもマックスに近い被災者の方々に、いったい何ができるのだろうか?と不安で一杯でした。しかし、被災者の方から話しかけてくださり、血圧測定や創傷処置などをおこなっていくうちに、自分の方からも被災者の方の中に入っていけました。また、福祉避難所から軽介助が必要な方が移動してこられた構造改善センターでは、看護師が常駐していないため支援ナースへの巡回要請がありました。そこは本来の活動場所ではないため、行政や日本看護協会との調整が行われました。その結果、19時30分から定時巡回をすることになりました。実際に巡回に行くと、避難所から移動された方もおられ、継続して観ることができました。また、保健師からの引継ぎで血圧測定などをおこなっていると「私も計っていただけますか?」と気軽に声をかけて下さる被災者の方もあり、私たちとの会話を通して安心したと言って下さいました。私たち支援ナースは、避難所だけでなく被災地域で困っている多くの方々にケアできる機会があると感じました。

山下 満代 さん｜野洲病院【5/20〜5/23・西原中学校】

訪問した日は震災から１ヶ月経っていましたが、避難所には250名の方が避難されており避難されている方の思いや地域風土を考えパーテーションの使用を無くされていました。その分、更衣室や学生の勉強場所の設置したりなどの配慮はされていました。お互いが声かけ合う姿が見られ協力し合って生活されており普段の地域の交流の深さを感じました。配給される食事内容は各避難所で違っておりお弁当とおにぎり、菓子パンがメインで野菜の摂取不足が目立つ状況でした。食生活の偏りや運動不足そしてストレスが加わり高血圧や糖尿病などの持病の悪化が見られ、また被災してから血圧の薬を飲み始める方もいらっしゃいました。

一番、印象に残ったのは避難所を管理されている地元の行政の方の身体的、精神的健康状態でした。地元の役場の方が自分自身も被災者している立場ながら避難所の管理を任されていました。早朝から夜遅くまで被災者のサポートに一人で行っている状態でした。急に来られる報道や登録していないボランティアの対応などが続く毎日を過ごされていました。常に血圧は高く自分自身の今後の不安を「仕方なかよね。誰かがやらんといけんけんね。」と笑って話されていましたが、私には話を聞き毎日血圧測定をする事しか出来ませんでした。避難されている方と共に、長期に渡って関わる支援者の健康管理も大切な事なのだと思いました。病院のように、カロリーや糖、塩分などの制限が出来る状況でない中、持病の増悪をしないような関わりをどうしていけばよいか振り返り今後に生かしていきたいと思います。

野村 耕一郎 さん｜市立長浜病院【5/20〜5/23・西原中学校】

今回、はじめて災害支援ナースとして活動を行わせていただきました。派遣された時期が一ヶ月経過していることもあり物資やライフラインは回復しつつありましたが、まだまだ自宅に戻れない被災者が多く避難所生活が余儀なくされる状況でありました。活動内容としては、被災所で暮らす人たちの環境整備と健康管理と精神的援助を主に行いました。特に前任者達の支援ナースのおかげもあり感染症の発生もなく生活環境を脅かす因子も少なかったと感じました。しかし、震災でのトラウマで家に入れない子が、避難所へ再度戻ってくることもあったので、心の傷は計り知れないものがあると感じました。３泊４日の活動期間でしたが、常に被災者と話を行い、同じ場所で生活を行う事で信頼関係も少しは築けて、心のつながりも持てた事が、自分にとっての財産と感じました。

また、支援者もさまざまな地域から派遣されていたので、避難所生活での問題点に関して、職種も違う人たちとディスカッションも出来て、対策も実行できたことが印象に残っています。当院の看護理念である「やさしさ、気づき、思いやり」の精神が必要だと感じました。今回の経験を活かして日々の看護につなげて行こうと思います。

楠田 和義 さん｜滋賀里病院【5/23〜5/26・西原中学校】

今回、フェーズ３亜急性期において西原村中学校で四日間支援活動を行いました。支援場所の体育館には約220人が避難生活をしており年齢層も様々な状態でした。この時期の状態はハネムーン期が終わり、徐々に現実が見えると共に意欲低下や悲壮感が増す時期に入ると言われています。この様な状態を踏まえて援助しよう!と思い支援に向かいましたが、この避難所は全体的に笑顔が多く、重い雰囲気が希少であったのが印象的でした。この避難所は、敢えてパーティションなどプライバシー保護に重点を置かず、オープンにする事で知らない者同士でも協力意識が高まり親密度が増すと言う理由で行っていました。また問題定義の際も代表だけで決定するのでは無く、皆で決定をすると言うスタンスにより各自が意識しトラブル防止になっている事が印象的でした。普段から隣との垣根が低いなど地域的な特色もありますが、この時期での多数の笑顔が見られた事は非常に驚きました。「被災者に笑顔を!」と言う目標で支援に来た他メディカルもこの状態に驚き、「更に笑顔を!」と言う目標に変更し共に支援活動を行う事が出来ました。今回の様に予測していた状態と違う時には「次のステップには何をするべきか?どのニーズが必要か?」などが学べた支援でした。

坂口 里香 さん｜滋賀県立成人病センター【5/23〜5/26・西原中学校】

私達が活動した避難所は、約220名の方が避難されていましたが、地震発生後約１ヶ月が経過し、避難所は縮小傾向にある時期でした。子どもから高齢者まで、幅広い年齢層の方が避難されていました。先の見えない不安を抱えながらも、復興に向けて前向きに生活されている方が多く、笑顔が多かったことが印象的でした。避難所では医療処置を行なう事はほとんどなく、主に被災後に高血圧になられた方の血圧測定や、熱中症予防などの保健指導を行ないました。避難者全ての方の健康状態や、既往歴、内服薬の有無を把握することの難しさを痛感しました。今回、私達の活動で、西原中学校への災害支援ナース派遣が終了となりました。家族構成や持病の有無を把握出来る用紙を作成し、保健師チームに今後も支援が必要だと思われる避難者さんの情報を引き継ぎ、活動を終了しました。次回、活動するときも、他職種と連携し、時期に応じた支援を行ないたいと考えます。

体育館のステージ横に
作られた救護班のスペース

神谷 孝義 さん｜滋賀県堅田看護専門学校【5/26〜5/29・大津町老人福祉センター】

「こんなイレギュラーな避難所もあるのか!」これが初日の活動を終えての正直な感想でした。活動をした避難所には本部がなく、担当の保健師さんも居たり、居なかったり。そのため、避難されている方々の自治もかなり自由なものでした。そのような中で、自治の中心的な存在である方とちょっとしたトラブルに。

このままでは支援に来た意味がないと気持ちを切り替え、２日目以降は避難されている方々のもとに飛び込みました。すると、「仮設住宅に申し込んだけど当選するかどうか……。」、「いつまでもお世話になっていられないけど、家で寝るのが本当に怖くて……。」など、ぽつりぽつりと心の内を話してくださるように。活動を終えて帰る際には、「ありがとう。」と、わざわざ玄関に見送りに来てくださりました。短い期間での活動でしたが、心のケアに少し携わることができたかなと思える瞬間でした。

どのような状況下にあっても、災害支援ナースとしてするべきことをする。こうでなければならないということは何もない。これらあたり前のことが、今回の活動での一番の収穫となりました。この経験での学びを、看護教員として、次世代を担う看護学生たちに伝えていきたいと思います。

笠原みすずさん（市立長浜病院）は、5/2〜5/5・御船中学校にて、磯部真由美さん（友仁山崎病院）は、5/26〜5/29・大津町老人福祉センターにて災害支援ナースとして活動いただきました。

委員会活動報告

看護師職能委員会

看護師職能委員会Ⅰ（病院領域）

看護補助者ポケットテキストのご紹介

委員長 奥野 佐千子

平成27年度看護師職能委員会Ⅰ（病院領域）の活動のひとつとして、看護補助者の活用が推進できることを目指したポケットテキストの作成に取り組みました。各病院で実施されている看護補助者の研修を、標準化したテキストを活用して効率的に行うことで、チーム医療の推進や看護ケアの質向上にむけた看護師との役割分担や連携、看護補助者の自律的な活動を目的としています。

テキストには、各病院の機能や方針が書き込める欄を設け、内容は、看護補助者の役割・倫理・個人情報保護・接遇・医療安全・院内安全感染対策・環境整備・移動と移送・災害時の対応・BLS・腰痛予防・認知症患者の対応・日常生活に関わる業務など汎用性の高い項目にしました。サイズは、見開きA6版にし、研修時に資料として呈示いただいた後、ポケットに携帯し常時現場で確認していただけるようにしました。

このポケットテキストは、平成28年度は看護師職能委員が在籍する病院で試用し、内容を検討していきたいと考えていますが、他の病院にデータでお渡しすることも可能ですので、もし活用しご意見を頂ける病院がございましたら、県看護協会を通して看護師職能委員にご連絡を頂きたいと思います。

看護師職能委員会Ⅱ（在宅医療福祉等領域）

看護師職能委員会Ⅱという委員会についてご存知でしょうか？

委員長 本郷 美代子

医療・介護総合確保法の成立・診療報酬改定などにより、地域包括ケアを支える看護の強化が必要となりました。滋賀県看護協会では平成24年度に委員会を発足し、在宅療養を支援する看護職の人材育成の為の研修会や看看連携を図る交流会を開催して参りました。

各地区支部における研修会では「フィジカルアセスメント」をテーマに開催し、近場での実習体験や近隣施設の同僚との交流を深める機会を設けました。また、「看取りについて」は市民や他職種の参加を得た公開講座を開催しました。そして、何よりも管理者の理解を高める為に、近畿地区の高齢者ケア施設の看護管理者の交流会にも参加していただきました。

小規模施設や診療所などの皆様のお知り合いの看護師さんに是非声を掛けていただきますようご協力をお願い申し上げます。

医療安全通信

医療安全推進委員会 vol.24

7月は新人のインシデントが増える時期です。

5S活動で職場の環境を見直しましょう！

《病院が変わる》
いい病院になる！

《職場が変わる》
良いチームワークは事故防止につながる！

《自分が変わる》
まわりから信頼を寄せられる自分になる！

1S 整理
要るものと要らないものをハッキリ分けて、要らないものをなくすこと

2S 整頓
要るものを使いやすいように置き、誰にでもわかるような状態にしておくこと

3S 清掃
身の回りや職場のものをきれいにしておき、いつでもすぐに使えるようにすること

4S 清潔
3S（整理・整頓・清潔）が常に維持されている状態のこと

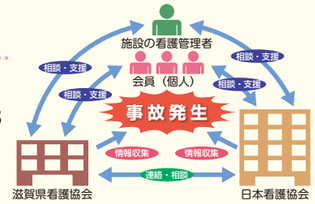
5S しつけ
決められたことを、いつも正しく守る習慣をつけること

5S活動とは

組織におけるモノ・情報・人を対象に「整理・整頓・清掃・清潔・しつけ」を全員参加で徹底する活動であり、これらの頭文字をとって5Sと表現される。この活動は、業務環境から無駄を省き、整理することによって、ミス・事故の防止、スペースの有効利用、作業効率の向上などを目指すものである。5S活動は単に物の整理にとどまらず、書類・情報・マニュアルといった、ソフト類の整理にも有効な活動である。

医療安全相談窓口

- ●受付時間：9時30分～16時（平日のみ）
- ●場　　所：滋賀県看護研修センター内 TEL.077-564-6468 / FAX.077-562-8998
- ●担　　当：看護協会長・常務理事・医療安全推進委員（適宜）
- ●方　　法：電話相談・来訪相談・FAX相談



地区支部だより

第２地区支部は草津市、守山市、栗東市、野洲市の会員・約1400名で構成されています。平成27年度は３回の研修会、地域活動、クリスマスリース作りを行った福利厚生活動が主な活動内容でした。この中で印象に残った活動をご紹介します。

地域活動・まちの保健室 玉川 萩まつりに参加
2015年10月31日（土）

草津市の小学校での秋祭りにて血圧測定、骨密度測定、体脂肪測定、手洗い体験やパンフレットの配布、健康相談を行いました。小学生から高齢者まで幅広い年齢層の住民の方々と触れ合え、地域での看護の魅力の発信と楽しい時間の共有ができた一日でした。

認知症高齢者の看護 ユマニチュードを学ぼう
2016年２月13日（土）

認知症看護認定看護師である中島博吉氏（済生会滋賀県病院）を講師に招き、ユマニチュードについて学びました。講義だけでなく様々な物を使用しながらの実技や技術指導もあり、すぐに実践に生かせる内容でした。参加者同士が触れ合ったり、会話をしながら五感を通して学べた研修会でした。

今後も会員のみでなく社会や地域のニーズにも応えられるような内容の研修や活動を継続していきたいと考えています。皆様のご意見やご協力をよろしくお願いいたします。

（第２地区支部長 河野 奈美子・広報担当 清水 数司）

ナースセンターだより

注目！ 退職された方は、ナースセンターへの届出をお願いいたします。

看護職員就職説明会

日時 7月24日(日) 13:00～15:30
会場 滋賀県立文化産業交流会館
（JR米原駅西口より徒歩7分）

開催します

- 滋賀県内の求人施設から就職の説明が受けられます。保健師・助産師・看護師・准看護師の資格をお持ちの方、看護学生の方、お気軽にご参加ください。
- 国試対策コーナー、就活メイクコーナー、各相談コーナーあります。
- 参加無料、託児無料です。

《 彦根サテライト 》

リスタートナースサポート研修開催のお知らせ

未就業で福祉、訪問看護ステーションに就職希望の方の参加をお待ちしています。

今年9月頃に開催します

看護学校進学説明会のお知らせ

看護師を目指す高校生のみなさん、社会人の方の参加をお待ちしています。

- **日時：７月22日（金）13：00 ～**
- **会場：G-NETしが『滋賀県立男女共同参画センター』（近江八幡市）**

看護職員・学生の方の こころのサポートしています

◇滋賀県ナースセンター ｜滋賀県看護協会内
第１・２・４木曜日／９：30 ～ 12：30 または 13：00 ～ 16：00
※学生の方も同様

◇彦根サテライト ｜くすのきセンター３Ｆ
第３火曜日／13：00 ～ 16：00
★相談希望の方はナースセンターへお電話ください

お問合せ先 **滋賀県ナースセンター** ★詳細はホームページをご覧ください。http://shiga-kango.jp/
Tel.077-564-9494（彦根サテライト Tel.0749-30-1235）／ E-mail: nurse-center@shiga-kango.jp

『看護フェア2016』が、開催されました

５月８日（日）、ピエリ守山にて、『看護フェア2016』が、開催されました。

今年は、「健康なからだづくり」をテーマに、約250名の参加で賑わいました。

講演では、スポーツ健康科学を研究されており、「ホンマでっか!? TV」に出演された立命館大学教授 田畑 泉先生をお招きし、「さあ始めよう！健康なからだづくり」と題して、生活習慣病と運動との関係について教えていただきました。多くの県民の方にご来場いただき、好評でした。

又、地域・家族のつながりを大切に、看護のこころ・ケアのこころを伝えらえるようにと、会場には、各種相談・体験・展示コーナーも設置されました。

小さいお子さんの「ナースに変身コーナー」では、とてもかわいらしく、微笑ましい姿が見られました。

体験された方にインタビューすると、「体験コーナーが多く、血管年齢とかを計ったことがなかったのでよかった。」「赤ちゃん抱っこや妊婦体験が楽しかったです。」と話されていました。

SHIGA! はたさぽ通信

就業コーディネーター｜松波 典代

ナースセンターは、働くあなたを支援します！

出張就職相談窓口をご利用ください

新緑の美しい季節になりましたが、紫外線が気になる季節です。綺麗でいるためにも健康のためにも肌はしっかり守りたいものですね。

新しい年度が始まり、再就業コーディネーターが松波典代に代わりました。現場の経験を活かし復職のお役にたてればと思います。４名の経験豊富な相談員の方々と連携しながら、就業相談においでいただく皆様をサポートさせていただきますのでよろしくお願いします。

ナースセンターは、1992年の「看護師等の人材確保の促進に関する法律」に基づき設置されました。厚生労働大臣の認可で看護職員無料職業紹介所を開設しております。滋賀県ナースセンターと彦根サテライト、そして、県内８箇所の出張就職相談窓口に現場経験を持つ看護職の相談員が求人情報を持って伺い、相談者の身になって再就業のご相談に応じます。身近な就職相談窓口にお気軽におこしください。

高齢化や医療の高度・専門化などにより、看護職の需要は年々高まっており、病院だけでなく地域の訪問看護ステーションや介護福祉施設においても、慢性的な看護職員不足は続き、未就業の方の復職に期待がかかっています。

ナースセンターは、皆様の側にあります。相談窓口を是非ご利用下さい。